日新輝道

東大阪市立日新高等学校
校長室通信　2023. 01. 11発行
返事！あいさつ！声！ダッシュ！！

「勝因」とは「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」、「敗因」とは「いい加減」「適当」「だいたい」、
今すぐできることは「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」
「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」を徹底し、日本一輝きを放つ学校を目ざします！

2023年卯年、飛躍・向上、そして日本一輝きを放つために

新年あけましておめでとうございます。2023年は卯(うさぎ)年です。干支(えと)の起源は紀元前の中国にあるそうで、当時は年を数えるのに木星の位置を使って数えていたそうです。木星の公転周期が12年であるので天を12等分し、この時に十二支が生まれたと言われています。この十二支を浸透させるために動物の名前がつけられ、その意味は後付けされたそうです。この文化が日本に伝来した頃には時間や月にも当てはめられ、それらの文化が現在まで継承されています。例えば1日24時間を12等分することにより、その時間を十二支の動物を用いて表現します。子(ね)の刻と言えば午前0時の前後2時間をさします。また、お昼12時は午(うま)の刻となりますので、お昼12時ちょうどを正午、その前を午前、その後を午後と呼んでいるのも、この十二支を用いた文化です。余談にはなりますが、怪談話をするときに、よく「草木も眠る丑三つ時(うしみつどき)」と始まりますが、丑(うし)は夜中2時をさすことから、夜中の2時から3時頃の草木も寝静まった時間という意味です。この意味を知ったとき「なるほど」と思ったものです。

十二支に用いられたそれぞれの動物には意味づけがされていますが、2023年の卯(うさぎ)は、安全の象徴という意味が込められており、卯の特徴である跳躍力をイメージし、飛躍や向上という意味が込められています。

新しい年の始まりは大きな節目の時です。節目をうまく自身の進化につなげたいものです。新年の誓い、新年の取り組みを具体化し、夢の実現への道を築くスタートとなることを期待しています。

明日から始めようと思うなら、今日から始めよ！

新年の誓いを具体化させるのに、ポイントとなることがいくつかあります。その1つが、「明日から始めようと思ったことは、今日から始める」ことです。これは多くの生徒諸君が経験しているのではないでしょうか。「明日から始めよう」と決めたことでも、明日になると、「やっぱり、また明日にしよう」と1日延びてしまいます。その次の日になると、「絶対、明日から。」ともう1日延びてしまい、延びてしまうことが数日続くと、当初の決意そのものが薄れてしまい、時間

だけが過ぎてしまっていることがよくあります。「明日から始めよう」と思うならば「今日から始める」のが成功のポイントだということは多くの場面で言われていることです。もし、新年の誓いで決意したことが10日あまり過ぎたいま、うまく進んでいなかったとしたら、新学期が始まるこの節目が立て直しのチャンスです。うまく節目を利用してください。全部できなくてもいいので、もし時間がなければ、少しでも、一部でも今日から始めることです。

始まったら継続させることが次のポイントとなります。今日できること、可能な限りできることを少しでも継続させることです。続けるためにはしんどいことがたくさんあります。「そんなことはわかっている。」と自分に言い聞かせ、しんどくてもできることを続けることが大切です。何日か継続させて最初を振り返ってみると、案外、積み上がっているものです。高い山を登るのに、予定通りに登れていなくても、前に進むことをやめないで、その日に登れる距離だけを登る、少しでもいいから前に進むということを積み重ねていると、ふと振り返った時には案外登れていたり、周りの景色が変わっていたりします。その時、新たな目標が生まれ、新たな気持ちで前を見ることができます。しんどいから、思うように進まないからといって、立ち止まったりやめたりすると、周りの景色も状況も変わりません。敵はすべて我にあります。11月に講演をいただいた腰塚勇人さんの言葉をお借りすれば、少しでもいいからやってみたらと話しかけるドリー夢メーカー、しんどいからやめてしまえばと語りかけるドリームキラーの闘いではないでしょうか。

2023年卯年は、積み重ねで飛躍する年にしましょう。日本一輝く日新高校の生徒は、日本一積み重ねを誇れる生徒であってもいいのではと感じます。

感謝の気持ちは、自分たちが取り組む気持ちから生まれる

年末年始の風物詩の1つに高校ラグビー、高校サッカー、春高バレーがあります。これらの他にも、かるた、書道、音楽、演劇等、高校生が活躍している場面が多々あります。こうした場面で高校生がインタビューを受け、答えていた場面で印象に残ったことがありました。それは、「いつも練習の時に、先生がこのようなことを繰り返し言っておられたので、そのことに集中して取り組もうとみんなで考えて形にしました。」と、高校生が話していた場面です。日新高校生の諸君は、このインタビューを聞いてどんなことを感じるでしょうか。

このインタビューでは、答えている生徒の言葉や表情から、日頃、自分たちに指導してくださっている先生に対しての感謝の思いや、それに応えている自分たちの頑張りに対しても、自信を持って胸を張れているように感じました。

毎日、みなさんはグランドや体育館を使ったり、また視聴覚室や教室を使ったりして部活動をしています。また、部活動だけではなく補習を受けたり、自習をしたりしている人もいます。これは、決して練習をしたり、自習をしたりしているのではなく「させていただいている」、時間や場所を「使わせていただいている」、という気持ちが大切です。だからこそ、無駄に時間や場所を使用するのではなく、本気で取り組まなければなりません。上手や下手の問題ではなく、保護者の方や先生、またその他にもいろいろな方々が、その時間、その場所、その環境をつくってくださっています。日新高校の生徒諸君が、常に物事を深く考え、こうした感謝の気持ちを大切にできるならば、きっと、日本一輝く学校に近づくのではないかと思っています。

何度も繰り返しますが2023年卯年がスタートしました。この節目をうまく利用して、新たな思い、新たな誓いを実現させてください。